

「今カノいかがですか？」

—初稿—

2026/6/21

米俵

〈人物表〉

村瀬 亮介	(28)	会社員
白井 ナオ	(38)	関係相談所の職員・女性
相沢 亨	(28)	村瀬の友人
岸本 このみ	(24)	村瀬の彼女

1. 居酒屋・店内（夜）

混みあっている店内。

村瀬亮介（28）と相沢亨（28）がカウンターで

飲んでいる。ほろ酔いの二人。

亮介 「別れる時が一番面倒だよな」

相沢 「まだ別れてなかったのかよ」

亮介 「傷つけちゃうなーとか考えるとね」

相沢 「はじまった。亮介が嫌なだけだろ？」

亮介 「何が」

相沢 「嫌われんのが」

亮介 「……まあ、それもある」

と、エイヒレを噛みちぎる。

相沢 「じゃあ、これ使えば？」

スマホの画面を見せる。

亮介がのぞく。

（スマホ画面）顔が見えない女性の写真が並ぶ。

亮介 「なんだよこれ。風俗？」

相沢 「ちげーよ」

（スマホ画面）一人を選ぶ。プロフィール、付き合

った歴、特徴が書いてある。

亮介 「どういうこと？」

相沢 「別れたい奴が出してる。彼女を」

亮介 「お前、フリマじゃないんだからさー」

相沢 「マッチングアプリみたいなもんだろ」

亮介、何か気付いた表情。

亮介 「あつ、もしかして？」

相沢 「そうだよ。ここで見つけた」

亮介 「まじ？ あの彼女？」

相沢 「いい子だよ。前の持ち主とは合わなかっただけ」

亮介 「おい、持ち主とか言うなよ」

相沢 「言葉のあやだろ。亮介の彼女もお前とは合わなくても、

別の奴とは合うかもしれないじゃん」

亮介 「んー……」

相沢 「それにこれなら嫌われない」

亮介、少し考えて、

亮介 「次の相手がいるから？」

相沢 「そう。自然と出会わせてくれるよ」

亮介 「どうやって出すの？」

相沢 「ここ行けよ」

と、名刺を出す。

亮介 「関係整理相談所……」

相沢 「いわゆる、別れさせ屋だよ」

亮介 「なるほどね」

相沢 「俺はもうやらないから。安心しろ」

亮介 「どっちの意味だよ」

亮介、名刺を見ながら、残った酒を飲み干す。

## 2. 関係整理相談所・扉前（昼）

雑居ビルの一室。ドアには「関係整理相談所」と書

かれた小さなプレート。

亮介、少し迷ってから、ドアを開ける。

## 3. 関係整理相談所・室内（昼）

亮介、きよろきよろと室内を見回す。

清潔な室内。白い壁。観葉植物。小さな加湿器。

白井ナオ（38）が満面の笑みで亮介に近づく。

ナオ 「ご予約の村瀬亮介様ですね」

亮介 「あ、はい」

ナオ 「こちらへどうぞ」

と、奥の相談スペースへ案内する。

ナオ 「本日は、パートナー様の出品登録でお間違いないでしょ

うか？」

亮介 「まあ……そうですね。なんか、でも出品って嫌ですね」

ナオ 「伝わりやすいので」

亮介 「安全なんですか？」

ナオ 「はい。ご登録はこちらの事務所でのみ承っております。

購入者の方はもちろん審査もございます」

亮介 「出品者は？」

ナオ 「お名前とお電話番号、あとは登録料のみです」  
亮介 「いくらですか？」  
ナオ、契約書を見せながら、  
ナオ 「登録料3万円、出品掲載料8万円、合計11万円となっております」  
亮介 「たかっ……あ、すみません」  
ナオ 「お気になさらないで下さい」  
ナオ、契約書の太字になっている部分を指して、  
ナオ 「ただし、マッチングが成立した場合は協力金として7万円がキャッシュバックされます」  
亮介 「えっ、実質4万？」  
亮介、ぼそっと、  
亮介 「揉めて修羅場になるより安いか……」  
ナオ 「はい。皆さま、そのように仰られます」と、満面の笑み。  
亮介 「でもなー、マッチングしますかね？」  
ナオ 「一度、体験出品されますか？」  
亮介 「そんなこと出来るんですか？」  
ナオ 「そうしましたら、こちら一読いただき、サインをお願いいたします」  
亮介 「これ、なんのサイン？」  
ナオ 「体験にあたっての登録ですね」  
亮介、サッと読んでサインする。  
ナオ、パソコンを開いて、  
ナオ 「パートナー様のお名前、ご年齢から宜しいですか？」  
亮介 「岸本このみ、24歳」  
ナオ 「お仕事は？」  
亮介 「会社員」  
ナオ 「交際期間はどのくらいですか？」  
亮介 「半年かな」  
ナオ 「……同棲は？」  
亮介 「してないです。ただ、週3ぐらいで来て、俺の家のこと色々やってますね」  
ナオ 「自発的な家事貢献度が高いということですね」

亮介 「いや、勝手に作り置きとか掃除って、うざくて重いだけでしょ」

ナオ 「半年で……愛着形成が早い方なんですね」

亮介 「愛着？ なに？」

ナオ 「続けますね。携帯を見たりとか、喧嘩はありましたか」

亮介 「携帯？ いや、そういうのはないですね。喧嘩も、だいたい向こうが謝ってくるので」

ナオ 「では、掲載イメージ作成にあたって、スタイルや服の系統を教えてくださいませんか？」

亮介 「写真？」

ナオ 「AIで作成いたします。ご本人の許可なく載せられませんか？」

亮介 「細身で胸はまあ大きいほうかな。服はよく分からないんですけど、カジュアルな感じ」

ナオ 「こんな感じでいかがでしょうか」

と、パソコンで作成したプロフィールを見せる。

【今カノいかがですか？】タイトルの下に情報が書かれ、最後に真剣交際向きと追加されている。

亮介 「なんか、凄い良さげ……」

ナオ 「では、これでテスト掲載いたしますね」

亮介 「どんな風になるんですか？」

ナオ 「まずは、興味アリのいいねが付きます」

音が連続で鳴る。

ナオ 「早速、つきましたね」

亮介 「えっ、もう？」

ナオ 「状態が良いので」

亮介 「状態……」

音が鳴りやまなくなる。

亮介 「すごいっすね」

いいね数が100を超える。

ナオ 「あっ、コメントで即決希望もきてます。村瀬様、これならキャッシュバック確定ですよ」

亮介 「……」

ナオ 「どうされますか？ このまま本掲載されますか？」

亮介 「どんな人からコメント来てるんですか……」

ナオ 「それは個人情報なので……でも、とっても条件がいい方ですよ」

ナオ、満面の笑み。

亮介、通知音が鳴る度に顔が強張る。

亮介 「あの……やっぱり、やめます」

ナオ 「あー、そうですね。お手元に置いておきたくなったお気持ち分かります」

と、パソコンを閉じる。

真顔で、

ナオ 「では、登録料3万円お支払いをお願いします」

亮介 「そんなの聞いてませんけど」

ナオ、亮介がサインした書類をトントンと叩いて、

ナオ 「こちらに記載がございます」

亮介 「は？ さっき、体験登録って」

ナオ 「はい。出品登録の契約書です」

亮介、言い返せない。

ナオ 「本掲載に移行してマッチングすれば、ここで止めるのと、1万円しか変わりませんが、どうされますか？」

亮介、財布を見つめる。

ナオ 「キャッシュレス決済も可能ですよ」

亮介 「……あの、今マッチしたら、4万円になりませんか」

ナオ、慣れた手つきで、別の書類を取り出す。

ナオ 「こちらの契約書にサインして頂ければ、可能です」

亮介 「出来るんですね？」

ナオ 「稀にいらっしゃいますので」

亮介、サインをする。

ナオ、亮介のサインと同時に本掲載をクリックする。

亮介にパソコンを見せながら、

ナオ 「購入希望者3名ですね。では、岸本このみ様へ同意確認を送信いたします」

亮介 「同意？」

ナオ 「はい。村瀬様の所有物ではありませんので」

亮介 「そんなことしたら、修羅場になるだろ」

ナオ 「いえ、今より条件が良い場合、恨まれるといったケースはほとんどありません」

亮介 「……」

ナオ 「キャンセルされますとペナルティもつきますが」

亮介 「また」

ナオ 「違約金——」

亮介、遮って、

亮介 「もういいよ、分かったよ。やれよ」

ナオ、送信ボタンを押す。

#### 4. 駅前（昼）

人込みの中、立ち止まってスマホを確認する岸本（のみ）（24）。

（スマホ画面）出品者：村瀬亮介 マッチング申請が届いております。同意をお願いいたします。

このみ、亮介との個人チャットを開く。

#### 5. 関係整理相談所・室内（昼）

亮介のスマホに、このみからのメッセージが届く。

（スマホ画面）見たよ。今までありがとう。亮ちゃんと幸せになりたかったな。冷蔵庫に作り置きのレストランバッグ入ってるから。体に気を付けてね。

亮介 「やっぱり、やっぱり、やめてもいいですか。違約金いくらでも払います」

ナオ 「申し訳ありませんが、このみ様が同意され、購入者様とのセッティングも進んでおりますので」

亮介 「キャンセルはもう無理？」

ナオ 「はい……」

亮介、うなだれる。

ナオ、パンフレットを取り出し、

ナオ 「ただ、うちは月額1万円から復縁支援も承れますので」と、満面の笑みを向ける。

（おわり）